



校 訓

邂 逅

「人、もの、こと」
との出会いの喜び

自 律

生徒自身が自らを律し
育っていく喜び

創 造

新たなものを生み出し
つくりあげていく喜び

学校教育目標

「知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、学校や地域を愛し、自主自立の精神に満ちた生徒の育成」

知

確かな学力
生きる力
個性の伸長

徳

豊かな心
感謝の気持ち
明るいあいさつ

体

健やかな身体
たくましい精神力
強い意志

学校の課題

- 本校の生徒は、比較的授業に真面目に取り組むが、学習意欲が低く、家庭学習の時間が少ない生徒も多いため、学習習慣の定着を図る必要がある。
- 「めあてを 意識した学習活動を通して、自分なりの言葉でまとめたり、振り返ったりすること」ができていない生徒が少ないため、振り返りシートを見直すなど、生徒自身が身に付けた 学力を意識化する必要がある。
- 体力向上については、現状を把握し、全教職員が関心をもち、学校全体で取り組む必要がある。
- 長欠の生徒が多く、家庭と学校とが連携するとともに、関係機関とも連携を深め、専門的な対場での意見を取り入れ、個に応じた対応と解決策を考える必要がある。
- 自尊感情を高める取組を学校全体で行うため、人権・道徳の校内研修の機会を増やす必要がある。
- 特別支援学級の生徒への支援は充実しているが、通常級における特別に支援を要する生徒に対する対応の必要性に迫られている。
- 校務分掌の整備と業務の平準化を図ることで、全職員の時間外勤務を45時間以下にする必要がある。

経営の方針と重点

- 【めざす学校像】
「生徒の可能性を伸ばし、生徒一人一人が輝く学校」
- 【めざす生徒像】
「時を守り、場を清め、礼を正し、当たり前のことが、当たり前に行える」生徒の育成
- 【めざす教師像】
「持ち味を生かし、信頼と責任と協力の精神に支えられた創造的で明るい教師集団」
- 本年度の重点目標
- 柱1 生徒の確かな学力・体力の向上
- 柱2 自尊感情を高め、受容的な態度を育てる
生徒指導の推進
- 柱3 特別支援教育の充実及び、個に応じたきめ細かな対応
- 柱4 枝光台中学校区への誇りと愛着を育む教育活動の充実
- 柱5 業務改善によるワーク・ライフ・バランスの実現

市の方針と重点

- 教育委員会の方針
1. 個別最適な学びと協働的な学びのためICTを活用した教育の充実
 2. 小・中学校の9年間の連続性・系統を生かした小中一貫教育の推進
 3. 長欠・不登校生徒への支援体制の構築
- 指導の重点(ポストコロナを見据えた学校教育)
- 1 確かな学力の育成
 - 2 健やかな体の育成
 - 3 豊かな心の育成
 - 4 特別支援教育の推進
 - 5 大量退職・採用時代における教員の資質向上
 - 6 学校における業務改善
 - 7 長期欠席・いじめ等へのきめ細かな対応
 - 8 児童生徒の安全確保
 - 9 家庭・地域・学校の連携
 - 10 社会的・経済的な課題への対応
 - 11 教育環境の整備
 - 12 学校施設の整備

【具体的実践事項と目標指標】

生徒の確かな
学力・体力の向上

- (1) 生徒の基本的な生活習慣と学習習慣の定着
 - ・ 「毎日の記録」の活用・家庭学習プリント(ワンプリ)の活用
 - (2) 主体的・対話的で深く学ぶ生徒を育成
 - ・ 「シンキングツール」の活用・NIEを中心に「書く活動」の充実
 - (3) カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程の編成
 - ・ 「ふりかえりシート」の活用・教科横断的な視点による学習
- ・ 新学習指導要領に関する校内研修の充実

自尊感情を高め
受容的な態度を育てる
生徒指導の推進

- (1) 生徒を主体とした教育活動(自己決定の場合)
 - ・ 校則の見直しや、学校行事への主体的参加
- (2) 道徳・人権教育を充実(自己存在感)
 - ・ 物事を多面的・多角的に考え、他を受容する人間性の涵養
- (3) 協働的な活動(共感的な人間関係)
 - ・ お互いを認め合い、一人ひとりの意見や考えが大切にされる教育活動

特別支援教育の充実
個に応じた
きめ細かな対応

- (1) 生徒の発達段階や特性等を理解し、個別に最適な学びを工夫
 - ・ ICTの効果的な活用と特性を理解するための研修の充実
- (2) コミュニケーション能力、ソーシャルスキルを身につけ、社会性を育成
 - ・ 学校行事や対人スキルアッププログラムなどによる教育活動の充実
- (3) 将来の希望や具体的な目標を持つことができる、適切な進路指導
 - ・ 職業体験などの体験的な学習や進路学習によるキャリア教育の充実

枝光台中学校区への
誇りと愛着を育む
教育活動の充実

- (1) 義務教育9年間を通じた連続性・系統性のある学習指導と生徒指導
 - ・ 小中一貫・連携教育の更なる推進
- (2) 地域・社会の一員であることを自覚するための取組を充実
 - ・ 地域行事への主体的な参加と地域の一員としての防災意識の向上
- (3) 家庭や地域と連携し、安全・安心な学校や地域社会の形成
 - ・ 火災・地震・不審者などに対する避難訓練の充実

業務改善による
ワーク・ライフ・
バランスの実現

- (1) 情報・資産の共有化、組織的な取組により、業務改善
 - ・ ペーパーレス化や会議の見直しなどによる更なる業務改善の推進
- (2) 外部人材の活用や関係機関との連携を図ることで、業務負担を軽減
 - ・ GTによる授業や外部機関と連携した研修などの充実
- (3) 学校予算の計画的な執行により、教育活動を効率化
 - ・ 社会に対応できる予算の計画的・効率的な執行